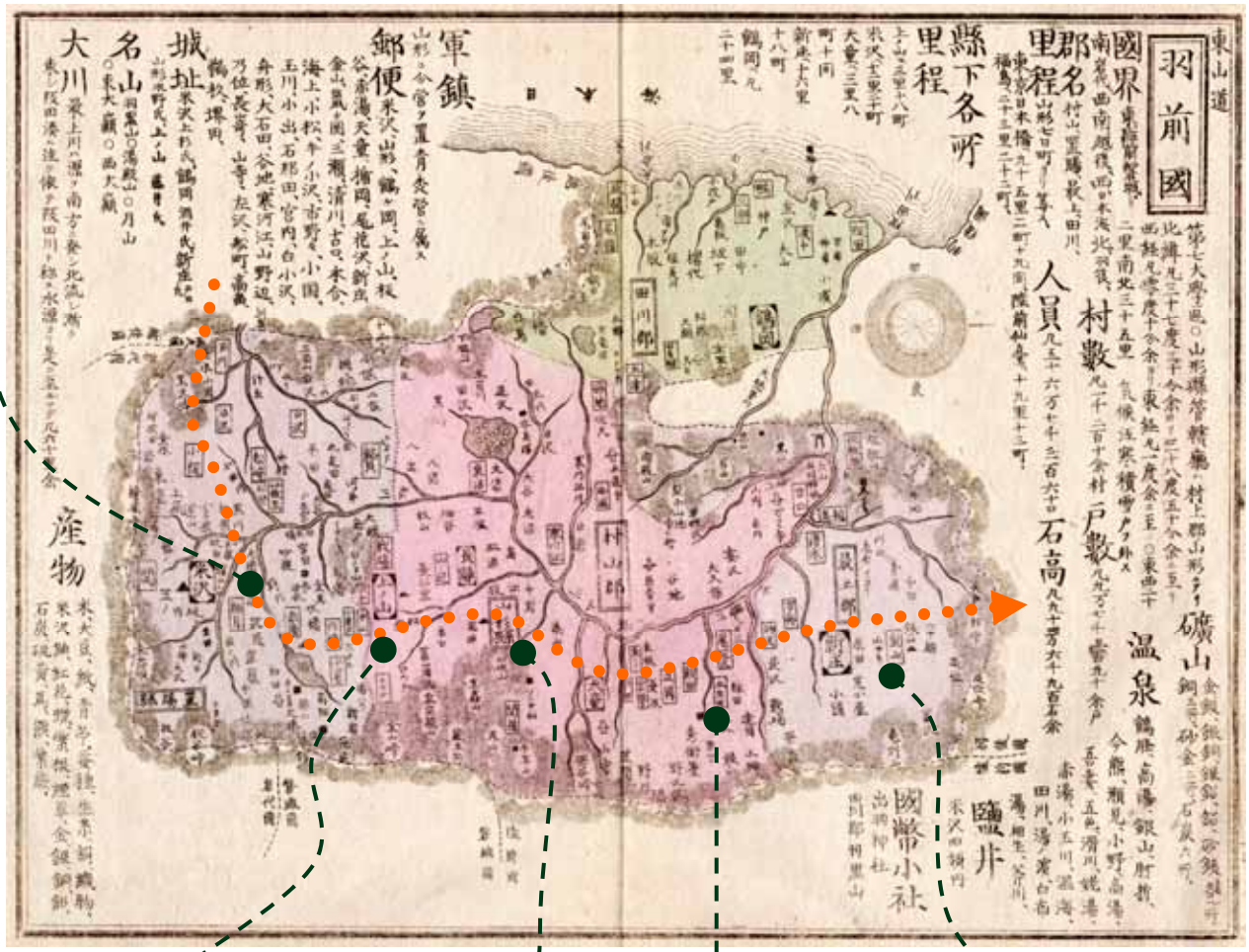
イザベラ・バードの足跡

置賜盆地は、南に繁栄する米沢の町があり、北には湯治客でにぎわう温泉場の赤湯があり、まったくエデンの園である。

鋤（すき）で耕したというより、鉛筆で描いたように美しい。米、綿、トウモロコシ、煙草、麻、藍、大豆、ナス、クルミ、水瓜、キュウリ、柿、アンズ、ザクロ、をたくさん栽培している。

実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア（桃源郷）である。

イザベラ・バード
（1831〜1904年）
イギリス・ヨークシャー州生まれ。旅行作家。23歳の時にアメリカとカナダを訪れ最初の旅行記を執筆。世界各地を旅行し、山形に旅行したのは47歳の時であった。



大日本国郡精図 羽前国 刊年：明治11年

上山は、清潔で空気がからりとしたところである。楽しげな家々には庭園があり丘を越える散歩道がたくさんある。

山形は県都で、人口二万一千の繁昌した町である。どの都会も町はずれはとても貧弱だが、新しい県庁の高くて白い建物が低い灰色の家並みの上にそびえて見えるのは大きな驚きである。山形の街路は広くて清潔である。

鳥海山は、比較的平坦な地方から全く思いがけない高さでそびえている。同時に（月山と思われる）山の大雪原が見えて下方にとても美しい連山が幕のように囲んでいるので、日本の最も壮大な眺めの一つであると考えられよう。

非常に美しい風変わりな盆地に入った。ピラミッド型の丘陵が半円を描いており、（略）北方への通行を阻止しているように見えるので奇異に感じる。そのふもとに金山の町がある。ロマンチックな雰囲気がある。

まったくエデンの園である。
「鋤（すき）で耕したというより鉛筆で描いたように」美しい。
実り豊かに微笑する大地であり、アジアの
アルカディア（桃源郷）である。

イザベラ・バード『日本奥地紀行』より

美しさ、勤勉、快適さに満ちた 魅惑的な地域

明治初期の美しい山形県に感動

今から一三五年前の明治11年（一八七八年）の夏、イギリスの女性旅行家イザベラバードは、東京から北海道まで旅し、置賜盆地について以下のような記述を残している。（『日本奥地紀行』）。

「実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア（桃源郷）である。（略）美しさ、勤勉、快適さに満ちた魅惑的な地域である。山に囲まれ、明るく輝く松川（最上川）によってかんがいされている。どこを見回しても豊かで美しい農村である。」

当時、世界中を旅行していたバードが、アジアのアルカディアと最大の称賛を送った土地が百年以上前の山形である。

手入れされた田畑と山並み、そこに住む人々のくらしが、よほど魅力的に映ったのであろう。

それから一三五年が経ち、あたりまえのこととして引き継がれてきた風景が貴重な資源として見直されている。

写真提供：みちのく湯泉郷「ハイジアパーク南陽」
上、旅行中のイザベラと愛用カメラ・右、ハイジアパーク南陽イザベラ・バード記念コーナー・左頁上、肖像写真）